

むさしのくにささめごう
40. <武蔵国佐々目郷>

今回のよもやま話は、いつもとは趣向を変えて歴史の話です。JS技術開発研修本部を訪れたことのある方は、「戸田市下笹目5141番地」という地名が記憶にあると思いますが、考えてみれば「笹目」というのは変わった地名ではあります。また、少し北の方には「美女木^{びじょぎ}」という地名があり、ヤクルトスワローズの二軍球場があります。このように技術開発研修本部一帯は、割と面白い地名が多い場所です。

ところで、筆者は鎌倉に在住しており、神奈川・東京・埼玉の一都二県を縦断して通勤しています。距離は長いのですが、最近、湘南新宿ライン一本で行けるので通勤は随分と楽になりました。それはさておき、鎌倉には由比ガ浜という海岸通りがありますが、ここにも「笹目」という場所がありバス停もあります。以前から、気になっていましたが、この二つの「笹目」の間には何か関係があるのでしょうか、それとも単に偶然なのでしょう。また、そもそも「笹目」という地名にはどう言う意味があるのか。どうも気になるので、ある時、図書館で調べて見ました。その結果、驚いたことに戸田の笹目は、実は鎌倉と深い縁がある土地であったのです。

話は670年前の中世にまでさかのぼります。建武二年（1335年）7月、鎌倉幕府滅亡の際に自害して果てた北条高時の遺子である北条時行が、幕府復活を図って鎌倉に攻め入るといふ事件がありました。その後、北条時行は鎌倉入りした足利尊氏に敗れて逃走し、足利尊氏はそのまま鎌倉に留まりました。そして同年8月27日に足利尊氏は武蔵国佐々目郷（現在の笹目）を鎌倉の鶴岡八幡宮に寄進したのです。

その後、佐々目郷は江戸時代の初め頃までの長い間、鶴岡八幡宮の所領の約3分の2を占める重要な領地だったのです。なお、当時の佐々目郷は、現在の戸田市西部、さいたま市浦和区西部、蕨市にまたがるかなり広い地域だったようです。

佐々目という地名は既に1293年の文書に出てくるそうですが、その由来については、鎌倉にあった佐々目谷の住人が来て開発したからという説や、北条氏一族の笹

目僧正なる人物の領地だったからといった説があるそうです。鎌倉の笹目は、昔の佐々目谷という地名に由来しているそうなので、もし佐々目谷の人が開発したことが戸田の笹目という地名の由来であるとすれば、二つの笹目の縁は更に深いものがあります。

それでは、そもそも笹目というのは、どういう意味があるのでしょうか？これには、色々あるようですが、「原野や湿地に生える笹萱（ササガヤ）や茅（チガヤ）のこと」という意味があるそうです。笹目は、昔は一面にカヤが生い茂る場所だったのかも知れません。

現在の戸田市笹目一帯は倉庫や工場、住宅が混在する地域で、歴史的な雰囲気は感じられませんが、実はこのように中世にまでさかのぼる歴史を持った場所なのです。ちなみに、近くの「美女木」という場所には、平安時代に宮廷から美人の官女が来て住んだという伝説があるそうです。そういえば技術開発研修本部の女性達には、何となく雅やかな雰囲気の方が多いのはその為なのでしょうか。（！？）

< 村上 孝雄 >

※No. 44 号(2005/9/6)に掲載